

JGN関東大会in下仁田特集!!

11月20日(日)・21日(月)の両日、関東近郊のジオパーク関係者が下仁田に集まり、今後の活動・現在抱えている悩み等について3つの分科会に分かれ、様々な形による意見交換が行われました。ジオパーク応援団も微力ながら大会のお手伝いをさせていただきました。

今回は、里見応援団の基調講演内容、分科会等について掲載させていただきます。

基調講演【ジオパークの原点】

里見 哲夫

下仁田町は周囲を山に囲まれ、種々な環境や気候風土に恵まれて文化が形成されてきました。昨年11月下仁田ジオパークが関東大会を受けるにあたって、くしくも基調講演をすることとなってしまいました。

下仁田地域は江戸後期に砥石、石灰岩、鉄鉱石やネギなどでその名が江戸に知られるようになりました。幕末には、下仁田戦争が一躍有名となりましたが、時代は一転して明治の御代となったのです。同18年には青岩に地質学者が入り秩父古成層の研究が深まりました。この年の10月には上野から横川まで鉄道が通じ、同20年にはミョウギシダが発見され、以降妙義山の植物研究が進みました。

また、神津牧場も同年日本初の様式牧場として有名となってバター生産が始まりました。同39年には上野鉄道が高崎から下仁田まで開通しています。同38年荒船風穴が創立し、蚕種の冷凍保存に成功し、全国各地から蚕種の冷凍保存を依頼されて各地に発送をしています。

昭和の時代を迎え下仁田の地質研究の成果が発表され、研究の最盛期は戦後から同40年代にかけてで、下仁田の地は一層地質学上有名になりました。

時代はいよいよ21世紀を迎えようとした2年前の平成9年に、群馬大学の野村教授より下仁田に資質研究の拠点になるような建物はないかとの紹介があり、鋭意努力を重ねた結果、利用していない幼稚園舎が候補に挙がりました。早速町当局と話合っ、議会の承認を得て候補地の決定を見ました。

この時、県では一郷一学を提言し、国では21世紀への教育改革を打ち出していました。①ゆとりある教育、②総合的学習、③土、日の休日等でした。丁度、種々の条件が重なりまして、幼稚園舎を自然史館とし、その中に自然学校を設置することが出来ました。野村教授は早速研究者やOBによってその活動を開始して、案内板の設置、学校への支援活動、観察会、講演会等をしてくださいました。

これらの経緯を経て、下仁田ジオパークの認定となりました。今後、下仁田町は多くの恵まれた地質資源を活用すると共に、町の一層の活性化を図り住みよく楽しい町づくりをして行く必要のあることを話しました。それには歴史、文学、民族、風習等を含めた幅広い活動が必要ではないでしょうか。



関東ストーリー分科会

公民館3階大会議室で、関東ストーリー分科会が開催され、下仁田町を含め50名を超える方々が参加しました。

テーマは「ジオパーク周遊モデルコース」を考えよう!!で、ご来訪の皆様にごジオパークの魅力をお伝えし、交流人口の増加を図るなど関東地区の連携強化のきっかけ作りとすることを目的としました。8班に分かれワークショップ形式で意見交流を行い大盛況のうちに、下仁田ジオパークを絡めたジオパーク周遊モデルコースを発表することができました。

私も参加させていただき、近隣にどのような見所や共通点があり、今後関東地区が協力してゆく必要性を共有でき、交流を深めることができました。

モデルコースには、「来てよし、見てよし、食べてよし」「関東平野を抱く山々の物語」「歴史を尋ねる旧道巡り」等、すぐにでも実現したい夢のあるものでした。



教育分科会

文化ホール2階で行われ、関東各地のジオパークから37名が参加くださり、会場は満席でした。内容は2部構成で、1部「学校教育」では下仁田小学校と下仁田中学校から「下仁田学習」の実践報告がありました。

2部「社会教育」では、ジオパーク下仁田応援団の「清掃活動とミニジオ講座」と公民館の「チャレンジキッズ」の活動報告を行いました。それぞれの報告について活発に意見交換がなされたので、他地域の活動の様子がよくわかり大変参考になりました。

学校の教育課程の中にジオパークの内容が組み込まれているのは羨ましい、という意見や、朝6時30分からの清掃活動をしていることに大変驚いた、といったお褒めの言葉をいただきました。また、地域の連携や活動の継続を課題としているところが多いこともわかりました。

荒船風穴、神津牧場ツアー

21日に行われた、ジオパーク関東大会荒船風穴、神津牧場ツアーは各地から40名の方にご参加いただきました。

前日と打って変わって曇り空の中始まったツアーでした。参加者は歴史館駐車場で周囲のクリッペを眺めてから、館内で職員からの展示解説に耳に傾けていました。

荒船風穴に到着すると周囲は霧がすぐそこまで下がってきていましたが、皆さんは興味をもって熱心に見学されてさまざまな質問をされていました。

神津牧場はすっかり霧に包まれ寒さを感じる中で美味しそうにソフトクリームを頬べる方々が沢山いて印象的でした。最後は町内で下仁田の名産が集まったすき焼きを召しあがっていただきました。



ジオパークで
地域に活力を!!

ジオパーク推進だより

下仁田町自然史館
下仁田町大字青倉158-1
☎70-3070 FAX67-5315
<http://www.shimonita-geopark.jp/>

日本ジオパーク関東大会in下仁田 ご協力ありがとうございました

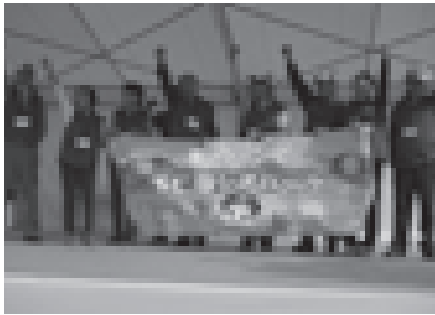
11月20日21日に開催した日本ジオパーク関東大会in下仁田は無事終了しました。下仁田ねぎ祭りと同日開催としたこともあり、たくさんの方に足を運んでいただくことができました。ジオパークを身近に感じてもらうきっかけになったのではないかと思います。ご来場いただいたみなさま、また、大会運営に関わっていただいたボランティアのみなさまありがとうございました。

参加ジオパーク

秋川流域 浅間山北麓 伊豆半島 茨城県北 秩父 銚子 筑波山地域 那須烏山 箱根 南アルプス

PRタイム

ねぎ祭りステージで行ったジオパークPRでは集まった参加者に自地域のジオパークをPRしていただきました。



基調講演・分科会

基調講演では、「ジオパークの原点」と題して里見哲夫氏（日本ジオパーク下仁田応援団長）、「郷土を活かした学校連携プログラム—下仁田学習について」と題して神戸智宏氏（高崎市立新町中学校教諭）にそれぞれ、下仁田ジオパークの特徴や下仁田ジオパークで特に力を入れてきた教育活動の実践例をお話しいただきました。

分科会では、ガイドが抱える問題や、ジオパークを活用した教育などテーマごとに分かれ議論をしました。



ジオツアー

荒船風穴・神津牧場コース、妙義山石門めぐりコース、まちなか散策コースの3つのコースで実施しました。あいにくの雨天ではありましたが、ガイドさんのお話のお蔭で、和気あいあいとしたツアーになりました。昼食には、下仁田ねぎを使ったすき焼き定食で下仁田の大地の恵みを堪能していただきました。



学校にもご協力いただきました

下仁田高校では、大会当日にスタッフが着用するベストのデザインを募集し、「ねぎ・こんにゃく・山」をモチーフにした3年園部江利さんのデザインが採用されました。

また、メイン会場となった文化ホールには中学生が作成した下仁田PRののぼり旗を飾らせていただきました。

大会2日目のジオツアー「町なか散策コース」では、小学校6年生のジオパークの学習見学や4年生が下仁田ねぎを使って作った「あったま汁」をふるまっていたいただきました。

ご協力ありがとうございました。



※下仁田町自然史館では、午前9時から午後4時まで展示室を開放しています、ぜひお出かけください。

※1月の休館日は1・2・3・16日です。

問合せ先 教育課ジオパーク推進係(下仁田町自然史館) ☎70-3070

今年もやります町民スキー教室

今年も恒例のスキー教室を開催します。現役はもちろん、若いときに滑っていた方、ボーダー、etc大歓迎です。

雄大な野沢温泉スキー場の白銀の世界を満喫しましょう。スパリーナ、外湯めぐりもいいですよ。

行き先 野沢温泉スキー場 期日 1月22日(日) 集合出発 午前7時 下仁田町役場

会費 2,500円 申込み期間 1月13日(金)まで

申込み先 教育委員会内体協事務局 ☎82-2115

下仁田スキークラブ事務局 竹内 ☎090-2629-7425



協力隊活動報告

沼田隊員報告

明けましておめでとうございます。昨年は新しい出来事ばかりで、協力隊員の肩書きを頂きながら、誰よりも様々な方々に協力をさせていただきました。本当にありがとうございます。新しい事よりも、今ある物を今年もしっかりと勉強し、今出来る事を行っていきたいと考えております。至らぬ点ばかりだとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

小池隊員報告

あけましておめでとうございます。

今年は酉年ですね、生まれ年の干支がまた回ってきました。早いものです。

さて、先月は地域おこし協力隊全国サミットが開催され、北は北海道、南は沖縄までの隊員が集まり情報交換や交流を行いました。

様々な協力隊員の活動を知り、他地域との交流もできたらと思いました。

また当町での活動に関しても任期が迫ってきました。より一層の精進を重ねたいと思います。皆様、本年もよろしくお願いいたします!

渡辺隊員報告

昨年中は並々ならぬご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

本年も何とぞよろしくお願いいたします。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

本年も下仁田町において、今できる範囲の中で少しでも役に立てるような事ができるよう務めてまいりたい所存でございます。

下仁田町は「何もない町」と耳にしますが、山と川という自然の恵みがございます。

「山と山間部ならではの川を感じる事ができる」、下仁田町に来る前に持っていたその感覚を忘れずに自然を活かした観光の土台作りに尽力いたします。

片山隊員報告

下仁田ねぎシーズン真っ盛りですね!わたしも日々、鍋にしたり炒めたりして食べています。

下仁田ねぎは言わずと知れた下仁田の特産品。これまでに、長野や前橋など他地域で下仁田ねぎの栽培を試みたこともあったのですが、下仁田産のねぎと同じ品質のものを作ることはできなかったそうです。実際に食味試験という、食べ物の味を判定する試験の結果を見ても、下仁田産のねぎは糖度が高いというデータが出ています。これは、下仁田の独特の気候がねぎの栽培に適しているからではないかと言われています。大地を上手に利用してきたからこそ、下仁田はねぎで有名になることができたのですね。

大井田隊員報告

市野萱区での訪問も3か月になりました。市野萱区では訪問をさせていただいた帰り際「きづいてね」とお声掛けいただきます。『気を付けてね』のこの言葉がとてもあたたかく私は大好きです。皆さんのお言葉からも地域の魅力を感じさせていただいています。

11月13日には矢川区防災訓練に参加しました。訓練とは言え、何とも言えない緊張感と無事に避難して欲しいという想いでいっぱいでした。訓練後は、消火器・AEDの使い方、心肺蘇生法、応急担架や土のうの作り方なども学び、日ごろから災害に備える心構えと地域のつながりが本当に大切だと実感しました。そして、矢川区の高齢者の方の交流会「矢川交友会」も3回目を開催することができました。回を重ねるごとに参加される方の人数も増え、会に対する前向きな意見も提案されています。少しずつでも皆様の集いの場・生きがいの場になっていけたらと思います。